Town Scape
タウンスケープ

滑川町

住んでよかった　生まれてよかったまちへ
住まいるタウン滑川

滑川町長　吉田 昇氏

町長のメッセージ

滑川町は、国営武蔵丘陵森林公園をはじめとした豊かな自然と、東武東上線の2つの駅を有し、そこから都内まで約1時間で通勤・通学ができる利便性が大きな魅力となっています。また、関越自動車道のインターチェンジからも近く、各地へのアクセスは良好で、今後一層の発展が期待されています。町が進める子育て支援事業も若い世代から評価をいただき、この5年間で人口は約800人の増加がありました。

今も人口は増えており、今後も誰もが「住んでよかった　生まれてよかった」と思えるまちづくりに向けて、全力で取り組んでまいります。

はじめに

滑川町は、都心から60㎞圏、埼玉県のほぼ中央に位置し、北は熊谷市、東と南は東松山市、西は嵐山町に接している。

鉄道は、町の南端を東武東上線が東西に通り、森林公園駅、つきのわ駅の2つの駅が設置されている。池袋駅まで約1時間と都心へのアクセスもよく、森林公園駅からは成田・羽田空港行きの高速バスも走っている。道路は、関越自動車道の東松山ICと嵐山小川ICがほど近く、便利に利用できる。

町の中央を町名の由来にもなっている滑川が、南東部を市野川が東西に流れ、滑川を境に北部はのどかな農業地帯が広がり、南部は新しい住宅地と工業団地が立地している。

豊かな自然に恵まれる一方、若い世代を中心に、今もなお人口増加が続いている大変住みやすいまちである。

緑豊かな北部地域

町の北部地域はなだらかな丘陵地からなり、丘陵地に囲まれた谷津田（やつだ）が美しい景観を見せている。谷津田は谷地にある田んぼのことで、田んぼと、丘と丘との間をせき止めて作ったため池、これを取り囲む里山の雑木林がセットになった風景が多く見られる。谷津田の上流には水田の水源となる大小約200個のため池が点在し、その数は関東一といわれている。

ため池を利用して作られるお米が「谷津田米」。里山に囲まれた冷たい沼水と昼夜の寒暖差が大きい谷津田で作る米は、町特有の粘土質の土壌と相まって風味豊かで大変おいしいと評判で、町のふるさと納税の返礼品にもなっている。

古くから行われているこの「ため池稲作農法」を後世に伝えていこうと、平成29年に、3市5町2団体からなる「比企丘陵農業遺産推進協議会」が設立され、日本農業遺産・世界農業遺産への認定を目指した取り組みを行っている。

北東部には、日本初の国営公園である「武蔵丘陵森林公園」がある（表紙写真）。東京ドーム65個分の広大な敷地の中には、武蔵野の面影を残す雑木林が広がり、運動広場、渓流広場、サイクリングコース、ジョギングコースなど様々な施設がある。梅まつり、桜まつり、自然観察会、秋に開催される「紅葉見（もみじみ）ナイト」など季節ごとのイベントも催され、多くの来園者で賑わっている。

商業施設や住宅が広がる「つきのわ駅」周辺（中央がつきのわ駅）

滑川町概要

人口(2020年4月1日現在)	19,329人
世帯数(同上)	7,879世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	43.3歳
面積	29.68㎢
製造業事業所数(工業統計)	42所
製造品出荷額等(同上)	1,165.4億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	75店
商品販売額(同上)	385.3億円
公共下水道普及率	54.1%
舗装率	48.4%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか

主な交通機関

●東武東上線　森林公園駅、つきのわ駅
●関越自動車道　東松山ICから町役場まで約5km
　　嵐山小川ICから町役場まで約6km

宅地化が進む南部地域

平成14年には森林公園駅に加え、つきのわ駅が開設された。東武東上線は、東京メトロ有楽町線、副都心線、東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線との相互直通運転により、新宿、渋谷、横浜、元町・中華街へ乗り換えなしで行くことができ、交通利便性が高まった。さらに森林公園駅は当駅始発が多く通勤・通学に大変便利である。

つきのわ駅周辺では、平成6年から土地区画整理事業が実施され、「月の輪」の地名で平成21年に完成した。大規模な住宅分譲が行われ大型商業施設がオープンしたほか、小学校が新たに開校され、美しい街並みが整えられた。

新しいまちの誕生で転入者が増加し、地方における人口減少傾向とは逆に人口が急増、とくに若い世代の転入が増加した。町の人口は10年前に比べ2千人以上増加し、現在は19,329人と2万人が目前になっている。また、合計特殊出生率も継続的に向上し、県内でも上位を維持している。

小学校の給食風景

充実した子育て支援策

若い世代の増加で子育て家庭が急増し、子育て環境の充実に対するニーズが高まったため、町では「子育て家庭への経済的支援」の観点から、平成23年4月より給食費の無償化を実施した。

無償化の対象範囲は、①町立幼稚園、小・中学校に通う園児・児童・生徒の給食費、②上記以外の幼稚園、小・中学校に通う園児・児童・生徒の給食費(私立・公立を問わない)、③保育園(公立保育所、認可保育所、認可外保育所)に通う園児の給食費(0~2歳児は除く)となっている。実際に給食費の費用負担が生じている子育て世帯に対し、「平等・公平」に支援が受けられるように、幅広く設定されている。また、無償化の条件も、滑川町に住所を有していることという居住要件のみで、所得制限や町税等の滞納状況は勘案しないとしている。

子育て世代の負担軽減策として、こども医療費の無料化にも取り組んでいる。平成20年4月には、それまでの小学校終了前の児童から中学校終了前の生徒に、平成23年4月からは、高校終了前の生徒までと対象年齢を拡大した。

滑川町の子育て支援策は、多くの保護者から高い支持を得ており、人口流入による人口増加など町の活性化にも大きく寄与している。

(樋口広治)